

2 選んだ本を読んで新聞を作る(1学期～夏休み)

夏休みにかけて自分が選んだ本を読み、その本を紹介するA4サイズの学習新聞を作ります。作成された新聞は個性豊か。廊下に掲示され、誰でも見ることができます。

新聞には、本を選んだ理由や読んでみての感想などが記されています。同級生が選んだ本はどういうものなのかを知ることができます。



作成した新聞▲

3 廊下にミニ図書館(秋ごろ)



選んだ本が3年生の廊下に並び、同級生が選んだ本を読めるようになります。友達が選んだ本やおすすめの本は手に取りやすく、興味が湧くそうです。「この本を選んだ人はどんな人だろう。仲良くなってみたい」と新たな友情が生まれるかもしれません。



4 選んだ本が図書室へ(年度末にかけて)

3年生が選んだ本が図書館に移動し、全校生徒が読めるようになります。

同級生や先輩が選んだ1冊の本を図書館にあるたくさんの本の中から探すのは、まるで宝探しのように、お気に入りの本に何冊出会えるか、楽しみです。



本を身近な存在に 本に親しむ環境づくり



最近では「読書離れ」が進んでいるとも言われています。さらに、デジタル化が進み、スマートフォンやタブレットで本が読めるようになり、紙の本に触れる機会は減ってきています。

こうした中で、子どもたちが紙の本を手取る機会を増やし、本に親しむを持ってもらうことを目的に、松前中学校では3年生を対象に「マイブックプロジェクト」と呼ばれる取り組みを行っています。

これは、書店で生徒が好きな本を1人1冊選び、その本が最終的に図書館に蔵書されるという取り組み

みです。本を選ぶことや読むことを通して、読書の楽しさを感じてもらおうきっかけになっています。

松前町ふるさとライブラリーでは、多くの本が所蔵されているほか、所蔵のない本は町民からリクエストを受け付ける「リクエストボックス」を設置するなど、誰もが本に触れられる環境が整っています。休日に書店や図書館で、お気に入りのマイブックを探すのもいいですね。

マイブックプロジェクト

1 本を選ぶ(1学期)



町内の書店にて、マイブックプロジェクトの始まりである本を選ぶ作業が行われました。書店のスタッフ、先生や友達と相談しながら、自分だけの本を選びます。本を選んだ後の週末は、書店に足を運ぶ生徒が多数いたそうです。



僕・私が選んだ本



「コンビニ兄弟4一テンダネス門司港こがね村店」
著：町田そのこ
表紙が面白そうだったから。事前に調べて人気の本だった。

▲寺内陸さん



「ハヤサ消防団」
著：池井戸潤
先生からのおすすめで選んだ。ドラマ化されているけれど、見ていないから読むのが楽しみ。

▲門田陽咲さん



「杉森くんを殺すには」
作：長谷川まりる
おすすめの本を置いてある本棚にあるのを見て、興味が湧いたから。

▲稲本寧稜さん



「カフネ」
著：阿部暁子
本屋大賞を取っているから。普段はあまり本を読まないけど、読むのが楽しみ。

▲和泉結衣さん



「幸村を討て」
著：今村翔吾
歴史が好き。徳川家康を追い詰めたと書いてあって、気になったから。

▲横山晴大さん